

血液内科 Hematology

1. スタッフ構成

○名和 由一郎(がん治療センター長、改善推進本部長、輸血部長)

1992年島根医科大学医学部卒

専門分野:血液全般、造血幹細胞移植、急性白血病、多発性骨髄腫

資格:日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医、日本血液学会血液専門医・指導医、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医・指導医、日本造血・免疫細胞療法学会造血細胞移植認定医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本輸血・細胞治療学会認定医・細胞治療認定管理師、ICD制度協議会インフュージョンコントロールドクター、厚生労働省臨床研修指導医

○中瀬 浩一(主任部長、働き方改革推進室長補佐、改善推進室長補佐、がん治療センター副センター長)

1996年岡山大学医学部卒

専門分野:血液全般、造血幹細胞移植、成人T細胞性白血病、感染症、栄養管理

資格:日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医、日本血液学会血液専門医・指導医、日本造血・免疫細胞療法学会造血細胞移植認定医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本化学療法学会抗菌化学療法認定医、ICD制度協議会インフュージョンコントロールドクター、厚生労働省臨床研修指導医

○佐伯 恭昌(部長)

2008年岡山大学医学部卒

専門分野:血液全般

資格:日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本血液学会血液専門医、厚生労働省臨床研修指導医

○橋田 里妙(部長)

2010年高知大学医学部卒

専門分野:血液全般、造血幹細胞移植

資格:日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本血液学会血液専門医、日本造血・免疫細胞療法学会造血細胞移植認定医、厚生労働省臨床研修指導医

○板楠 今日子(医長)

2009年筑波大学医学専門学群卒

専門分野:血液全般

資格:日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、指導医、日本血液学会血液専門医、日本造血・免疫細胞療法学会造血細胞移植認定医、日本輸血・細胞治療学会認定医、厚生労働省臨床研修指導医

○上田 怜(医長)

2013年愛媛大学医学部卒

専門分野:血液全般、感染症

資格:日本内科学会認定内科医、日本血液学会血液専門医、ICD制度協議会インフュージョンコントロールドクター、厚生労働省臨床研修指導医

○後藤 有基(医長)

2015年金沢大学医学部卒

専門分野:血液全般、栄養管理

資格:日本内科学会認定内科医、日本血液学会血液専門医、厚生労働省臨床研修指導医

○森 悠記(専攻医)

2020年島根大学医学部卒

専門分野:血液全般

○諫見 俊宏(専攻医)

2020年岡山大学医学部卒

専門分野:血液全般

○宗石 愛花(専攻医)

2021年愛媛大学医学部卒

専門分野:血液全般

○土居 優希(内科専門研修プログラム専攻医)

2022年愛媛大学医学部卒

専門分野:血液全般

2. 実績

当科では、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群、白血病などの患者さんに、安全で満足度の高い化学療法を行っています。初回化学療法は基本的に全例入院で行いますが、以後は化学療法の日程や安全性なども考慮して、外来化学療法に移行するか、入院の化学療法を繰り返すかを決定しています。そのため、診療科別外来稼働額では当科が院内1位となっています。昨今の病院全体での化学療法の件数増加、それによる化学療法室の慢性的なベッド不足もあり、外来化学療法加算の算定ができない皮下注射の化学療法については、2020年2月から中央処置室で当科医師が施行しています。2021年は1,101件、2022年は1,386件、2023年は1,664件と、年々増加する皮下注射の化学療法を当科医師が行い、病院の収益にも貢献していると考えています。

県内の血液疾患の患者さんは、なるべく地元で治療ができるように、県立南宇和病院に2か月に1回、県立今治病院に月1回診療支援に伺っています。治療の必要な患者さんは迅速に中央病院で治療を行い、状態が落ち着いて南宇和や今治でも治療可能となれば、県立南宇和・今治病院で診療を行っていく体制を構築し、東予・南予地区で患者さんの満足できる質の高い血液診療を提供できるよう心がけています。

■ 疾患別入院患者数

疾患名	2021	2022	2023
急性白血病	125	123	145
うちALL	26	19	52
骨髄異形成症候群	122	105	56
悪性リンパ腫	294	266	311
多発性骨髄腫	36	68	65

慢性骨髄性白血病	27	2	14
慢性リンパ性白血病	6	6	0
再生不良性貧血	1	4	9
その他	81	129	73
合計	692	703	673

■ 死亡症例数

	2021	2022	2023
症例数	18	18	30
うち剖検数	1	0	1

■ 初診患者数

疾患名	2021	2022	2023
急性白血病	20	28	18
うちALL	4	3	5
骨髄異形成症候群	18	44	18
悪性リンパ腫	89	86	103
多発性骨髄腫	11	20	17
慢性骨髄性白血病	11	10	15
慢性リンパ性白血病	4	4	3
再生不良性貧血	3	4	5
特発性血小板減少性紫斑病	12	17	21
その他	194	180	121
合計	362	393	321

■ 検査・治療件数

検査・治療名	2021	2022	2023
骨髄穿刺	380	480	389
骨髄生検	171	197	191
血液疾患による輸血療法			
赤血球製剤	3,230	3,470	3,826
新鮮凍結血漿	822	476	228
濃厚血小板	13,050	15,050	12,870
自己血	5	6	13
小計	17,107	19,002	16,937
血縁者間骨髄移植	1	1	3
非血縁者間骨髄移植	2	1	0
血縁末梢血細胞移植	3	5	1
非血縁末梢血細胞移植	1	0	0
自家末梢血幹細胞移植	4	7	10
臍帯血移植	6	9	7
うちハプロ移植	1	5	2
移植後外来(件数)	68	59	68
外来化学療法			
外来化学療法(点滴)	1,057	976	843
外来化学療法(皮下注)	1,101	1,386	1,664
小計	2,158	2,362	2,507
セカンドオピニオン(紹介数)	3	1	3
骨髄移植ドナー	4	2	7
うち非血縁	3	1	4
末梢血幹細胞移植ドナー	4	4	5
うち非血縁	1	0	3

3. 2024 年度目標

昨年度に引き続き、職員が安心して働くことができ、離職者が出ず、職員満足度の高い職場を目指します。その結果、患者さんに良質な医療が提供できて、患者さんの満足度も上がると考えています。具体的な目標は以下のとおりです。

(1) 職員の心理的安全性重視と働き方改革

当科のチーム医療においては、職員の心理的安全性を重視します。つまりパワーハラスメントの撲滅です。各自が思ったことを気兼ねなく発言できて、チーム内の意思疎通が十分に行われることで、重複する業務を減らし、職員が安心・納得して働ける職場を目指します。

(2) 患者さんの QOL(生活の質)向上

当科には造血細胞移植を通じて構築した良好なチーム医療の体制があります。チーム医療を生かして、患者さんの QOL を維持・向上することで、当院で治療して良かったと患者さんに言っていただけの医療を提供します。具体例として、質の高い栄養療法と理学療法を通じた体力の維持・強化、治療に関わる様々な不安を解消するための多職種での関わりをさらに重視していきます。

(3) EBM 重視と EBM 創出

医療の提供にあたっては、医師のみならず、チームの全員がエビデンス(提供する医療の根拠)を重視して、患者さんおよび医療スタッフが納得できる医療を目指します。また、EBM 創出のため臨床研究を推奨し、日常の業務の中で気が付いた疑問が解決できるような研究に取り組みます。

4. 学術関係

(1) 学会発表および講演

- 橋田里妙、肥山隆一郎、後藤有基、上田怜、板橋今日子、森正和、中瀬浩一、名和由一郎。ムンプスワクチン接種後に無菌性髄膜炎を発症した、臍帯血移植後骨髄異形成症候群。第 45 回日本造血・免疫細胞療学会総会。名古屋 (2023.2.10-12)
- 中村綾花、上田怜、後藤有基、橋田里妙、板橋今日子、佐伯恭昌、森正和、中瀬浩一、名和由一郎、村上太一。腎臓に浸潤した慢性リンパ性白血病(CLL)に対して Ibrutinib が奏功した一例。第 62 回日本血液学会中国四国地方会。松山 (2023.3.4)
- 土居優希、森正和、肥山隆一郎、後藤有基、上田怜、橋田里妙、板橋今日子、佐伯恭昌、中瀬浩一、名和由一郎。Plerixafor era における末梢血幹細胞採取時の造血前駆細胞数測定の有用性。日本内科学会第 128 回四国地方会。高知 (2023.7.23)
- Mori M, Nakase K, Hiyama R, Goto Y, Ueda R, Saeki K, Kito K, Nawa Y. DLBCL without surface immunoglobulin light chain restriction may have higher risk of CNS involvement. 第 85 回日本血液学会総会。東京 (2023.10.13-15)

(2) 論文・著書

- 橋田里妙、後藤秀樹(北海道大学)。濾胞性リンパ腫に対する CAR-T 細胞療法の位置づけ。血液内科 87(4)。451-456 (2023.1)
- Nakamura Y, Mori T, Kako S, Yamazaki H, Kanda Y, Uchida N, Tanaka M, Nawa Y, Fukuda T, Ichinohe T, Atsuta Y, Onishi Y. Outcome of peripheral blood stem cell transplantation from HLA-identical sibling donors for adult patients with aplastic anemia. Int J Hematol 117(3). 356-365 (2023.3)
- Yamasaki S, Mizuno S, Iwasaki M, Seo S, Uchida N, Shigesaburo M, Nakano N, Ishiwata K, Uehara Y, Eto T, Takase K, Kawakita T, Tanaka M, Sawa M, Katayama Y, Nawa Y, Makoto O, Ichinohe T, Atsuta Y, Kanda J, Yanada M. Efficacy and safety of allogeneic hematopoietic cell transplantation in acute myeloid leukemia patients aged>65years with unfavorable cytogenetics. Ann Hematol 102(6). 1549-1559 (2023.6)
- 森正和、中瀬浩一、渡部真志、三瀬和人、兵頭和樹、上田怜、橋田里妙、

板橋今日子、宮崎幸大、名和由一郎. ウイルス血症陰性移植後ヒトヘルペスウイルス-6B 脳炎:foscarnet 先行投与との関連. 日本造血・免疫細胞療法学会会誌 12(3). 194-199 (2023.7)

5. Urata T, Naoi Y, Jiang A, Boyle M, Sunami K, Imai T, Nawa Y, Hiramatsu Y, Yamamoto K, Fujii S, Yoshida I, Yano T, Chijimatsu R, Murakami H, Ikeuchi K, Kobayashi H, Tani K, Ujiie H, Inoue H, Tomida S, Yamamoto A, Kondo T, Fujiwara H, Asada N, Nishimori H, Fujii K, Fujii N, Matsuoka KI, Sawada K, Momose S, Tamaru JI, Nishikori A, Sato Y, Yoshino T, Maeda Y, Scott DW, Ennishi D. Distribution and clinical impact of molecular subtypes with Dark Zone signature of DLBCL in a Japanese real-world study. Blood Adv 7(24). 7459-7470 (2023.8)